



バリアフリー体験の感想

誰にでも優しい「まち」ってどんな「まち」だろう？
体験して分かったことや
これからのまちづくりにつ
いて感想を頂きました。

実施日：平成30年10月16日（火）、23日（火）

体験した方：新潟市立大野小学校6年1組、6年2組のみなさん

場所：『交通バリアフリー体験ひろば』（国土交通省 北陸技術事務所構内）

- ・目の不自由な人のために音の鳴る信号、車いすや高齢者のためにスロープを増やした方が良かったと思った。
- ・高齢者体験では、紫色と茶色の区別がなかった。
- ・お年寄りが長く生きられるような町にしたい。
- ・他の学校にも体験してもらいたい大切なことを知ってほしい。
- ・将来、すべての人が暮らしやすく、楽しく生活できる町にしたい。車いすはガタガタしたので、段差をなくしたい。
- ・ちゃんと設備が整っていても、車いすにとっては点字、視覚障害者にとっては真っ平らな道が、使いづらかったりするの
で、どちらにも使いやすい町づくりをしたい。
- ・スロープと階段を使い分けたり、高齢者のいるところでは、まっすぐな道などが家や学校にあるといいなと思った。
みんなが協力しあい、使いやすい町にしていきたい。
- ・点字ブロックの途切れているところをなおし、高齢者や障害者にやさしい街を作ってほしい。
- ・一人一人の気持ちを考えて取り組み、（歩道とブロックなどの）色を似せず、明るくすれば良くなると思う。
- ・将来色々な場所がどんな人でも使いやすい場所になってほしい。
- ・普段は感じない段差も目の見えない人にとっては、大きな段差だなと思った。
なるべく段差を低く作って、みんなが楽な町にしたい。
- ・点字ブロック以外で、目の見えない人には便利で、車いすの人には不便ではない方法はないのかなと思った。
- ・点字が大事なことがあらためてわかった。
- ・視覚障害者用、車いす用の歩道を作ればいいと思う。
- ・高齢者体験では、歩くだけで精いっぱいなので、段差は特にきつかった。
- ・例えば階段をもっとスロープにしたり、点字ブロックを増やしたり、障害者が便利に暮らせる町を目指して欲しい。
- ・車いすは、5cmの段差でもタイヤがひっかかり、動かしづらくなることが分かった。
- ・色々な所にスロープと点字ブロックをもっと付けて欲しい。
- ・障害者等の目線で体験できたので、（ただ）話を聞くより、気づいたことがたくさんあった。
- ・家や学校で、階段などの段差にスロープのようなものをつけることができると思う。
- ・困っている人に声をかけ、安全に行動できるよう助けてあげる、やさしい人が多いまちになってほしい。
- ・高齢になる前に、高齢者を知ることができてよかった。
高齢になっても足などトレーニングをし、長生きできるようにしたい。
- ・障害者や高齢者は普段の生活の中で大変なことはいっぱいあると思う。
だから、日々周りの人が支えてあげなければならないということがよく分かった。